

会 議 名	第3回港区まちづくりマスタープラン検討委員会
開 催 日 時	平成27年12月21日（月曜日）午後7時から9時まで
開 催 場 所	区役所9階研修室
委 員	<p>(出席者)</p> <p>学識経験者委員：中井委員、服部委員、桑田委員、森本委員、杉浦委員、羽生委員</p> <p>区民委員：今村委員、SUH委員、保坂委員、中島委員、堀場委員、大本委員、吉田委員</p> <p>行政委員：小柳津副区長</p> <p>(欠席者) 市古委員</p>
事 務 局	波多野街づくり支援部長・芝地区総合支所長（兼務）、佐野特定事業担当部長、坂本都市計画課長、杉谷土木課長、岩崎土木計画担当課長、西川交通対策担当課長、齊藤街づくり計画担当係長
傍 聴 者	4人
会 議 次 第	<p>1 開 会</p> <p>2 議 題</p> <p>(1) マスタープランの基本的な事項について</p> <p>1 将来都市構造（ゾーンと拠点）と整備方針（資料 4 頁）</p> <p>(2) 全体構想について</p> <p>1 まちづくりマスタープランの基本理念、将来都市像（資料 5 頁）</p> <p>2 まちづくりの方針(テーマ)別の方向性について（資料 7～11 頁）</p> <p>(3) 地区別まちづくりの方針について（資料 11～16 ページ）</p> <p>(4) 今後のまちづくりの進め方について（資料 17 ページ）</p> <p>3 その他</p> <p>4 閉 会</p>
配 付 資 料	<p>【説明資料】</p> <p>資料 港区まちづくりマスタープラン 改定骨子（案）たたき台</p> <p>【参考資料】</p> <p>参考資料1 区民アンケート実施結果</p> <p>参考資料2-1 意見交換会の開催状況（中間報告）</p> <p>参考資料2-2 意見交換会ニュース No. 2（各地区）</p> <p>参考資料3-1 地区別まちづくりの方針の評価と改定に向けた課題</p> <p>参考資料3-2 現行計画の評価～地区別まちづくりの方針～</p> <p>参考資料4 第2回検討委員会での指摘に関する補足資料</p> <p>参考資料5 委員名簿</p> <p>参考資料6 港区まちづくりマスタープラン検討委員会設置要綱</p> <p>参考資料7 第2回検討委員会 議事要旨</p> <p>参考資料8 今後のスケジュール（予定）</p>

会議の結果及び主要な発言

	<p>1. 開会</p> <p>2. 議題</p> <p>(1) マスタープランの基本的な事項について</p>
委員	<p>将来都市構造と整備方針の図において、みなとパークや芝浦中央公園をみどりの拠点として位置づけていない理由は何か。</p>
委員長 事務局	<p>このみどりの拠点は、どの上位計画に示されているものか。</p> <p>「港区緑と水の総合計画」で中心的な緑の拠点として位置づけられているものを示している。全体構想の分野別方針では、中心的な緑の拠点である8カ所を含む全19カ所の緑の拠点を記載している。</p>
委員長	<p>緑と水の総合計画とマスタープランは、完全に一致させなくてもよいのでは。拠点となっていない小さい公園の中でも、区民の利用実態や比較的規模の大きいものについては、拠点として記載してもよいだろう。</p>
事務局 委員	<p>検討する。</p> <p>拠点とゾーンの整備方針では古川の話がないが、具体的に触れてみてはどうか。</p>
事務局 委員長	<p>古川については、全体構想の分野別方針で詳細に記載している。</p> <p>将来都市構造の図では大々的に古川が表現されているため、文章の中で触れられていないことには違和感がある。</p>
事務局 委員	<p>図の表現を工夫する。</p> <p>交通の観点から言うと、将来都市構造の図では拠点同士の連携がわかりづらい。骨格となる軸が見えてくるよう、将来都市構造の図にも軸を記載し、3ページの図を受けて区内部の交通体系をどう考えるのか示す必要がある。輸送力の大きなものとそうでないもの等、公共交通の階層性を見せることが必要である。</p>
事務局 委員	<p>ご指摘いただいた点を踏まえ、検討する。</p> <p>拠点とゾーンとの関係について、ゾーンの整備方針を踏まえて拠点の整備方針が示される方がわかりやすいのではないか。各拠点の整備方針もランダムな順番となっており、ゾーンを踏まえて説明することでより読みやすくなる。</p>
事務局 委員	<p>拠点とゾーンとを関連づけた説明に修正する。</p> <p>広域交流活性化ゾーン（区南東部）には芝、高輪などが含まれ、増上寺、泉岳寺などの歴史的なものがあるが、ゾーンの整備方針の中で歴史・文化には触れられていない。今年度の景観計画の改定において、歴史的建造物を核とした景観形成について強化しており、ゾーンの整備方針でも触れた方が、全体の話のつながりをわかりやすくするのはではないか。</p>
事務局 委員	<p>検討する。</p> <p>4ページの整備方針は、マスタープランの中でとても重要な位置づけである。そのことを踏まえると、整備方針の言葉が浮ついてしまっている印象がある。例えば、地域生活活性化ゾーン（区南西部）の整備方針では「最先端の文化や情報を発信…」とあるが、港区には最先端のものだけでなく、麻布十番の商店街など、江戸や古くからのDNAが息づいている部分がある。キラコンテンツ的なものとして、港区の大きな魅力となっている古い商店や施設が数多くあることを踏まえ、「最先端」だけを捉えてしまうことのないよう配慮いただきたい。港区の魅力は、最先端と伝統が共存している点である。</p>
委員長 委員	<p>歴史的な視点は十分に意識しながら書き込んでいただきたい。</p> <p>3ページの図では広域の連携と都市機能の集積が示されているが、分野別</p>

	<p>の方針になるとこの視点が見えなくなってしまうている。界わい性、都市機能の集積によりそれぞれのまちにキャラクターがあり、そのことが広範から人を集める要因となっているが、そのことが読み取りにくいまどめとなってしまうている。その点を見えやすくしておく、一様な表現となっている各地区の地区別方針の書き方を区別できるのではないか。例えば国際化というテーマをみても、地区ごとに大きな違いがある。</p>
委員	(2) 全体構想について
事務局	<p>8ページの道路・交通に関する図は、将来の構造を示した図なのか。そうであるならば、新駅周辺の道路整備などがはっきり見えてこない。</p> <p>新駅周辺の道路については、今回提示の図には示していない。環4については図が小さく見づらくなってしまっているが、示している。ここに示すのは方針図であり将来の構造を示すものであるため、現状だけでなく今後の計画も見据えた記載に修正する。</p>
委員	<p>8ページの住宅・生活環境・防犯の強化する点に「多様な世帯が住みつけられる…」とあるが、ここには障害者やLGBTなど、多様な人々を受け入れる記載とした方がよいのではないか。また、分野別の各方針において、文章の単語を選ぶレベル感、バランスについて、統一感を持たせるよう配慮いただきたい。</p>
委員	<p>港区の場合、社会的弱者のみがターゲットではないといった視点も必要である。</p>
委員	<p>8ページの道路・交通の課題は、「総合的・計画的な交通体系の構築」ではなく「総合的・階層的な交通体系の構築」とするほうがよい。</p>
委員	<p>将来都市構造で示されているゾーンと地区別方針を策定する5地区の関係はどうなっているのか。拠点の中に赤坂が示されていないのはなぜか。</p>
事務局	<p>将来都市構造の拠点は、上位計画である東京都都市計画区域マスタープランが前提となっていることから、赤坂は記載していない。</p>
委員	<p>自転車利用についていろいろなところに記載が見られるが、港区では車道に自転車レーンを設けるという話であったと認識している。歩行者の立場からすると、自転車ネットワークの発展はよいが、歩行者と自転車の錯綜が気になっており、区として整備の方向性はどのように考えているか。</p>
事務局	<p>港区としては、自転車通行帯は原則車道に設ける。十分な幅員がない道路については、ナビマーク等の表示で対応する。</p>
委員長	<p>歩道であろうが車道であろうが、自転車と人とは通行帯を分けるのが基本ということか。</p>
事務局	<p>自転車は、車道通行を原則としており、都道、国道についても同様の考え方である。</p>
委員	<p>9ページの緑・水の図に示されている「中心的な緑の拠点」と「その他の緑の拠点」との違いは何か。どのように階層分けされており、何が根拠となっているのか。</p>
事務局	<p>緑と水の総合計画では、環境保全、防災、景観、レクリエーションの機能について複数の役割を担っているところを「緑の拠点」とし、そのうち大規模なところを「中心的な緑の拠点」としている。大規模な拠点を補完するものが「その他の緑の拠点」である。</p>
委員	<p>拠点の階層は、単純に面積規模だけで決めるのではなく、用途や担う役割などを網羅して決めるべきではないか。それぞれの緑の拠点に必要なのは「緑量の確保」なのか、「オープンスペースの確保」なのか、(マスなのかボイドなのか)の仕分けは最低限明確にしておく必要がある。</p>
事務局	<p>今後整理した上で提示したい。</p>

委員 事務局	強化する点に記載のあるエコロジカルネットワークとはどういうことか。エコロジカルネットワークは、生物多様性地域戦略の中で位置づけられている。港区では大小様々な緑地が市街地に点在するが、これは生き物にとってよい環境であるとは言えない。生き物が移動できるような緑のつながりとしてエコロジカルネットワークを位置づけている。
委員	そうであれば崖線緑地の方が重要と考えるがどうか。ここで示されているのは主に道路と河川である。
委員長	緑に関連する個別計画とどのように整合をとっていくかは、今後の要検討課題とする。ここで他の個別計画をやりかえてしまうわけにもいかない。
委員	10 ページの国際化・観光・文化の強化する点では、国際都市にふさわしい環境整備が一番目に挙げられているが、これでは最先端であることばかりを重視しているように見えてしまう。考え方としては、そのまちにあるもの(②③)があってこそその環境整備なのではないか。
事務局	記載の順序に順位付けといった意図はないため、順序によってそのような誤解が生じてしまわないよう配慮する。
委員	9 ページの防災の強化する点では、老朽マンションの耐震化や建替えの支援と記載があるが、通行人にとっての安全・安心という視点からだと、マンションだけでなくオフィスや店舗も同様である。
委員長	区が行う支援となると、マンションが先に立ってくるが、もう少し幅広く書き込んでもよいのではないか。書いたからといって必ず支援しなければいけないというわけでもない。課題では「老朽化した建築物」と記載があるため、それに対応した表現を検討いただきたい。
事務局	記載については検討する。
委員	同じく防災について、港区には超高層の建物が多く、かつ湾岸部に建っているものが多いが、区として長周期地震動への対応は示されているのか。国交省では、超高層マンションに対して補助金を出すようなことも示されている。そういった視点をまちマスに盛り込む必要があるのか検討いただきたい。
委員長	市古先生にも相談し研究していただきたい。
委員	10 ページの国際化・観光・文化に関して、区民との連携、区民の文化発信の支援、教育施設の連携といった点も、今後は重要になってくると考えられる。
委員	10 ページの景観の図では、主に過去の古いものをピックアップして示されているようだが、新しく生み出される景観も重要なのではないか。景観においても、古いものと新しいものの両方があるということは重要である。新しい魅力の創出を想定しているエリアが盛り込まれると、より魅力を表現できるのではないか。
事務局	新たなものについては、景観形成特別地区で取り組むことを想定し記載している。
委員長	全体構想の分野別方針の方針図については、どの分野においても、現状と将来の区別がわかりにくい印象はある。本来は方針図として目標を示すものであるはずなので、景観などについても今後の方針を含め落とし込んでいけるとよい。
委員	「区民、事業者、行政による協働」という言葉が何度も出てくるが、これまでどのくらいの成果があり、今後区民はどの程度関わっていけるのか。
事務局	達成度として具体的にお答えするのは難しいが、方針としては示していく必要があることからこのような記載としている。それぞれの主体が役割に応じて取り組んでいこうというのが協働の考え方である。
委員	区民の中ではこれまで協働という認識が低かった。協働で取り組んでいく

事務局	<p>のはよいことだと思うが、協働がすべてではない。 それぞれが果たす役割があるということをご理解いただけるよう記載していく。</p>
委員	<p>(3) 地区別まちづくりの方針について 交通の中に、物流の話が見られない。駐車施設の集約は可能だが、それと併せて附置台数もコントロールすることで、空いたスペースを活用して地域の荷さばき施設をうまく設けることができれば、交通の円滑化につながり、CO2の排出量が削減できる。防災面での物資輸送の話でも物流の話は重要となる。</p>
委員	<p>舟運は災害時にも役に立つと考えられることから、交通の視点として盛り込んでもよいのではないか。</p>
委員	<p>芝浦港南地区では、現在遊歩道の整備が進んでいるが、緑・水の方向性に示されている「運河沿い緑地連続化」により、緑地によって都市と水辺が分断されてしまっているのではないか。水辺空間は目的がなければ入れない空間となっており、にぎわい創出に対してネガティブな印象を受ける。緑地連続化ではなくにぎわいの創出、連続化に変えることはできないか。</p>
委員	<p>(4) 今後のまちづくりの進め方について まちづくり人材の発掘・育成の中で、学校教育との連携が示されていない。コミュニティスクールは全国的にも導入されているところがあり、今後どんどん聞かれるようになるのではないか。教育現場、地域、行政の連携や、低学年のうちからのまちづくり教育について盛り込んでいただきたい。</p>
事務局	<p>所管とも意見交換をしながら記載を検討する。</p>
委員	<p>まちづくり人材の育成については、地域の大学、高校等も巻き込みながら、一緒にやっているとよいのではないか。複合的にまちのことを考えるよいきっかけとなるとともに、在学の人が港区に愛着を持ってくれば将来定住してくれるかもしれない。</p>
委員	<p>地域主体のまちづくりにまちづくり条例の活用と書かれているが、条例の活用については区民全体にあまり知られていない。地域主体のまちづくりは理想ではあるが、実際に進めていくことは非常にハードルが高い。そのためには協働体制の構築が重要となると考えられることから、もう少し具体的な体制を示し、まちづくりへの取組を示せるとよいのではないか。</p>
委員長	<p>今年度は骨子なので、来年度以降検討する本編の中でどこまで書き込むかが課題となる。事業者主導、住民主導など、協働体制にもいくつかのパターンがあるため、その程度は骨子でも示せるとよい。</p>
委員	<p>(5) その他 「良好な」「魅力的な」という言葉を極力使わず文章を検討すると、具体的な記載ができるのでは。検討していただきたい。</p>
副区長	<p>将来都市像について、本日は特段議論がなかったが、事務局案として「うるおいある国際生活都市～思わず深呼吸したくなる、清々しいまち～」を考えている。皆様からご意見をいただきたい。</p>
事務局	<p>(説明) 今後のスケジュールについて</p>
委員長	<p>3. 閉会 本日意見を出し切れなかった部分については、来週月曜日（12月28日）までに直接事務局へお伝えいただきたい。</p>